

兵 庫 大 学

大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻

修士課程

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

- 1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
 - (1) 学生の確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
 - ア) 定員充足の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
 - イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要・・・・・・・・ P 4
 - ウ) 学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
 - (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・・・ P 7

- 2 人材需要の動向等社会の要請
 - (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的・・・・・・・・ P 8
 - (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠・・・・・・・・ P 8

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア) 定員充足の見込み

① 近隣地域の経済系大学院の設置状況

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻（修士課程）において、育成しようとする人材は、地域経済の活性化と発展を実現するために、産業振興や地域振興のための事業構想と高度な実践力が求められる職業を担うための高度な専門性と実務能力を身に付けて、企業、団体、および公的機関等において、地域創生のリーダーとして地域経済の発展に寄与できる高度な専門職業人である。上記の目的から、入学者は社会人及び現役学生の入学が見込まれるが、様々な分野で社会経験を積む社会人が主な入学対象と想定される。

本学は、兵庫県の播磨地区（東播磨地区、中播磨地区、北播磨地区、西播磨地区の4地域から構成）の南部に位置し、付近にはJR西日本山陽本線や山陽電鉄本線が通り、交通網が充実しているため、東西からの通学が便利である。そのため、兵庫県内に限らず、隣接する大阪府ならびに岡山県からの学生の進学も見込まれる。

本研究科の学生募集エリアとして最も有効としているのは、兵庫県及び大阪府、岡山県の3府県である。同エリアには、経済・経営系大学院は、国立大学3校、公立大学3校、私立大学15校の合計20校が設置されている。3府県における修士課程及び博士前期課程の入学定員の合計は665人である。

【資料1 兵庫県及び大阪府、岡山県の経済・経営系大学院の設置状況】

② 入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み

文部科学省による「平成30年度学校基本調査」では、「商学・経済学」の大学院修士課程の志願者及び入学者数は、私立大学全体で志願者6,953人、入学者2,535人と、社会科学分野の中では最も多い。また、大学院修士課程における社会人在籍者の占める割合は全体では12.1%であるが、社会科学系における比率は高く、「商学・経済学」では43.3%となっている。（資料2）

続いて、平成30（2018）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター）によると、平成30（2018）年度の全国における経済・経営系大学院（私立）修士課程及び博士前期課程の設置数は149校、志願者数は5,848人、入学者数は1,839人である。過去3カ年の推移から、研究科の設置校数は、平成28（2016）年の154校から、平成30（2018）年には149校と減少した。志願者数は、平成28（2016）年は3,763人、平成29（2017）年は4,465人、平成30（2018）年は5,848人と増加傾向にあ

る。それに伴い、入学者においても、平成28（2016）年は1,721人、平成29（2017）年は1,820人、平成30（2018）年は1,839人と増加している。このことから、研究科の設置数が減少しているにも拘わらず、志願者及び入学者数が年々増加傾向にあることは、経済・経営系大学院における人材育成は今後の地域経済発展において重要性が増しているといえる。（資料3）

さらに、本研究科は、目指す人材の育成に十分な教育研究指導の質を保証できる規模を考え、専任教員11人（教授8人、准教授3人）と兼任教員1名（教授）を配置した。経済学の専門に加え、企業経営、経営戦略、情報技術の専門や地域創生にかかわってきた実務経験のある教員が所属し、学生が幅広い分野から、多角的に経済学を捉えられるような教育研究指導体制を敷いている。

しかしながら、今後は年少人口の減少が予測されており、それに伴い、本研究科の入学者として想定される社会人が属する日本の労働力人口は、平成32（2020）年に6,314万人、平成42（2030）年には5,800万人に減少するとされている。そうした状況を踏まえ、継続的かつ安定的な教育研究活動を行うためには、適正な入学定員の設定および学生の確保が重要な課題であると考えている。（資料4）

以上を総合的に考慮し、本学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻設置に伴う入学定員については、慎重に検討した結果、5名に設定する。

【資料2 専攻分野別志願者・入学者及び大学院在籍者】

【資料3 経済・経営系大学院（私立）の設置数・志願者数・入学者数】

【資料4 労働力需給の推計（独立行政法人労働政策研究・研修機構2016年4月）】

<本課程への入学意思についてのアンケート調査結果（入学意向調査）>

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻（修士課程）への入学ニーズを測定するため、入学者として想定される社会人及び本学現代ビジネス学部生に対し、入学意向を問うアンケート調査を実施した。社会人については、「兵庫県内の商工会議所および各商工会会員企業で業務に従事する者」及び「兵庫県、大阪府、岡山県在住の22歳～65歳の一般社会人」を対象とした。その結果、本研究科修士課程への主な入学想定対象集団（社会人、本学現代ビジネス学科の在学生）の336人のうち、13名（回答者全体の3.9%）より「入学したい」、13名（同3.9%）より「合格した場合、状況によって入学したい」との回答結果（定員に対して5.2倍）となり、入学定員を上回る進学需要があることが明らかになった。そのうち、社会人は22名おり、11名（回答者全体の4.2%）より「入学したい」、11名（同4.2%）より「合格した場合、状況によって入学したい」との回答であった（定員に対して4.4倍）。また、調査対象とした回答者の所在地は、兵庫県在住が310名（回答者全体の92.3%）、大阪府在住18名（同5.4%）、岡山県在住1名（同0.3%）、対象府県以外7名（同2.1%）であった。

この結果から、本研究科は前述「① 近隣地域の経済系大学院の設置状況」でも述べたように、交通網が整備され、比較的通いやすい位置にあるため、近隣地域から支持を得ており、特に3府県（兵庫県、大阪府、岡山県）からの入学者を見込むことができ、地域の企業等を通じた入学者確保が可能であることがわかる。

【資料5 入学意向についてのアンケート調査報告書】

上記の調査結果により、本研究科は、入学定員5名（収容定員10名）に見合う学生を長期的かつ安定的に確保できる見込みが示されている。

③ 定員未充足学科への対応

現在、本学において定員未充足率が0.7未満となっている学科は、現代ビジネス学部現代ビジネス学科（以下、「現代ビジネス学科」という。）と健康科学部栄養マネジメント学科（以下、「栄養マネジメント学科」という。）である。

（現代ビジネス学科の対応）

現代ビジネス学科は平成28（2016）年4月に地域のビジネスリーダーとして、人々の暮らしを豊かにし、地域・経済の発展の原動力となる人材の育成を目的に設置された。現代ビジネス学科では、「グローバルビジネス専攻」「地域ビジネス専攻」「公共政策専攻」の3専攻を設定し、基礎となる経済学を活用して、それぞれのビジネスシーンで活躍できる学びを提供することを学びの特色として掲げ、積極的な学生募集を展開した。また、開設前より受験対象者等へのアンケートや、同分野を有する近隣大学等への志願動向等の調査、人材需要の動向の分析を行うなど、学生確保の見通しを確認したが、開設初年度より定員未充足の状態が続いている。これまでの入学定員の充足状況であるが、平成28（2016）年度入学者数は35人（定員充足率0.29）、平成29（2017）年度入学者数39人（定員充足率0.32）、平成30（2018）年度入学者数は56人（定員充足率0.46）であった。このことを、本学では重要な課題と位置づけ、全学を挙げて改善に向けた募集戦略を構築、展開した結果、平成31（2019）年度入学者数は107人（定員充足率0.89）と大幅に増加した。

増加の要因の1つとして、学年進行により、学内で学んだ知識をもとに、地域課題の解決に向けた教育活動を地域で展開したことにより、学びの「見える化」が促進されたことが挙げられる。

しかしながら、入学定員充足には至っていないことから、これまでの現状を踏まえ、かつ教育の質保証を担保するための適正な入学定員の在り方について協議を重ね、その結果、令和2（2020）年度の入学生より、入学定員を120人から100人（△20人）とすることを決定した。加えて、留学生枠を設定し、グローバルな視点から活躍できる人材を養成するために、多様な学生を積極的に受け入れることとし、継続して全学を挙げて安定した定員充足をめ

ざす。

(栄養マネジメント学科)

次に栄養マネジメント学科であるが、管理栄養士養成施設とした平成 13 (2001) 年に設置され、安定して定員を確保していたが、近年、定員割れが続き、平成 27 (2015) 年度入学者数は 67 人 (定員充足率 0.83)、平成 28 (2016) 年度入学者数は 37 人 (定員充足率 0.46) となった。急激な入学者数の減少に対応するため、学生募集担当部署を交えた検討会を重ね、定員割れの原因として栄養マネジメント学科の学びの特色が発信できていないことが挙げられた。対応策として学びを明確化するために、平成 28 年度よりコース制を導入し「食品コース」「スポーツ・食育コース」「臨床栄養コース」の 3 コースを設置し、各コースの学びの特色について積極的に広報を行った結果、平成 29 (2017) 年度入学者数は 47 人 (定員充足率 0.58)、平成 30 (2018) 年度の入学者数は 58 人 (定員充足率 0.72)、平成 31 (2019) 年度入学者数は 62 人 (定員充足率 0.77) と微増ではあるが回復しつつある。加えて、栄養マネジメント学科では 3 年次編入学の受入れを行っているが、近年、編入学においても、定員を確保できていない状況にある。編入学定員の充足に向け、短期大学等への積極的な訪問や編入学希望者への進学説明会の参加等、募集活動を展開してきたが、3 年次編入学定員の 20 人を充足できていない。このことから、過去 5 年間の入試結果等を勘案し、平成 31 (2019) 年度より 3 年次編入学定員を 20 人から 5 人 (△15 人) に変更し、栄養マネジメント学科の収容定員を 360 人から 330 人 (△30 人) とすることとした。

以上の通り、現代ビジネス学科、栄養マネジメント学科ともに、適正な定員に減員を行う予定であることから、学生募集担当部署の予算、人的資源の強化を行い、定員の充足に努める。

イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

上記「ア」-②「入学定員設定の考え方及び定員充足の見込み」でも触れたが、令和 2 (2020) 年度に改組を予定する兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻 (修士課程) の学生確保の見通しを測定するために、平成 30 (2018) 年 11 月～平成 31 (2019) 年 1 月に「設置構想についての入学意向アンケート調査」を実施し (調査報告書は (資料 5) として添付)、調査結果から入学定員を確保できると判断した。入学意向アンケート調査の概要は以下の通りである。

① 入学意向アンケート調査の概要

概要調査の目的	兵庫大学大学院が平成 32 年 4 月に設置構想中の「現代ビジネス研究科修士課程 (仮称)」【以下、当該研究科と記す】の学生募集ニーズを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ること。
調査期間	平成 30 年 11 月～平成 31 年 1 月

<p>調査対象 (依頼先)</p>	<p>A 兵庫県内の商工会議所で業務に従事する者および各商工会会員企業で業務に従事する者 B 兵庫県、大阪府、岡山県在住の一般社会人（22 歳～65 歳） C 兵庫大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科在籍生（1～3 年次生）</p>
<p>調査方法</p>	<p>●調査対象A 商工会議所：人事採用担当者宛に当該研究科の説明が入ったアンケート調査用紙と返送用封筒をセットしたファイルを郵送または持参し、勤務する一般社会人への配布を依頼した。個別に回答の上、直接返送を得る形式で実施した。 商工会会員企業：各商工会に依頼し会員企業の中から任意の5社を選び、その人事採用担当者宛に当該研究科の説明が入ったアンケート調査用紙と返送用封筒をセットしたファイルを配布した。勤務する一般社会人への配布を依頼し、個別に回答の上、直接返送を得る形式で実施した。</p> <p>●調査対象B ネットアンケート調査により実施（株式会社クロスマーケティング協力）。 調査会社に登録するモニターのうち兵庫県、大阪府、岡山県在住の22歳～65歳の一般社会人950人にアンケートを配信し、回答期間を設定（2日間）し調査を行った。 調査内容において調査対象Aとの重複回答者を除外する設問を設定した。</p> <p>●調査対象C 学部学科教員よりアンケート用紙を配布、その場で回収した。</p>
<p>調査内容</p>	<p>選択式および記述回答式の12問の形式 (主な質問項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答者の基本情報 ・当該研究科への受験、入学意向 ・当該研究科で学びたい理由他
<p>有効回収件数</p>	<p>調査対象A：113件 調査対象 B：147件 調査対象 C：79件</p>
<p>調査実施主体</p>	<p>株式会社高等教育総合研究所</p>

② 入学意向アンケート調査の概要

回答者の属性	回答者数	構成比
A 兵庫県内の商工会議所に従事する者および各商工会会員企業で業務に従事する者	113	33.3%
B 兵庫県、大阪府、岡山県在住の一般社会人(22歳～65歳)	147	43.4%
C 兵庫大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科在学生(1～3年生)	79	23.3%
計	339	100.0%

設問(抜粋)	番号	選択肢	総計 (A+B+C)		上記A		上記B		上記C	
			回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
問3 あなたの現在の勤務先の業種をお選びください。 (あてはまるもの1つに○)	1	建設業	12	3.5%	7	6.2%	5	3.4%	0	0.0%
	2	電気、ガス、熱供給、水道業	2	0.6%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%
	3	製造業	80	23.6%	55	48.7%	25	17.0%	0	0.0%
	4	通信業	1	0.3%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%
	5	IT関連行	3	0.9%	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%
	6	放送、新聞、出版	3	0.9%	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%
	7	運輸業、郵便行	6	1.8%	2	1.8%	4	2.7%	0	0.0%
	8	金融業	2	0.6%	1	0.9%	1	0.7%	0	0.0%
	9	保険業	2	0.6%	0	0.0%	2	1.4%	0	0.0%
	10	卸売業、小売業	20	5.9%	12	10.6%	8	5.4%	0	0.0%
	11	不動産業・物品賃貸業	3	0.9%	0	0.0%	3	2.0%	0	0.0%
	12	宿泊業・飲食サービス業	5	1.5%	2	1.8%	3	2.0%	0	0.0%
	13	教育、学習支援	8	2.4%	0	0.0%	8	5.4%	0	0.0%
	14	福祉	6	1.8%	0	0.0%	6	4.1%	0	0.0%
	15	その他サービス業(政治・経済・文化団体含む)	28	8.3%	18	15.9%	10	6.8%	0	0.0%
	16	公務員	10	2.9%	1	0.9%	9	6.1%	0	0.0%
	17	非営利団体	11	3.2%	10	8.8%	1	0.7%	0	0.0%
	18	その他	11	3.2%	2	1.8%	9	6.1%	0	0.0%
	19	大学生(経済系)	79	23.3%	0	0.0%	0	0.0%	79	100.0%
		無回答	47	13.9%	3	2.7%	44	29.9%	0	0.0%
	計	339	100.0%	113	100.0%	147	100.0%	79	100.0%	
問6 あなたの最終学歴(在学中の方は現在の学校)をお答えください。 (あてはまるもの1つに○)	1	中学卒	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	2	高校卒	1	0.3%	0	0.0%	1	0.7%	0	0.0%
	3	専門学校卒	11	3.2%	9	8.0%	2	1.4%	0	0.0%
	4	短期大学卒	13	3.8%	12	10.6%	1	0.7%	0	0.0%
	5	大学卒	181	53.4%	59	52.2%	122	83.0%	0	0.0%
	6	大学卒(兵庫大学)	3	0.9%	1	0.9%	2	1.4%	0	0.0%
	7	大学院卒	13	3.8%	2	1.8%	11	7.5%	0	0.0%
	8	その他	30	8.8%	29	25.7%	1	0.7%	0	0.0%
	9	大学在学中	79	23.3%	0	0.0%	0	0.0%	79	0.0%
		無回答	8	2.4%	1	0.9%	7	4.8%	0	0.0%
	計	339	100.0%	113	100.0%	147	100.0%	79	100.0%	
問7 あなたは兵庫大学大学院「現代ビジネス研究科(仮称・設置構想中)」を受験したいと思いませんか。 (あてはまるもの1つに○)	1	受験したい	33	9.7%	9	8.0%	15	10.2%	9	11.4%
	2	受験しない	268	79.1%	104	92.0%	94	63.9%	70	88.6%
	3	無回答	38	11.2%	0	0.0%	38	25.9%	0	0.0%
		計	339	100.0%	113	100.0%	147	100.0%	79	100.0%
問8 あなたは兵庫大学大学院「現代ビジネス研究科修士課程(仮称・設置構想中)」を受験し、合格した場合、入学したいと思いませんか。 (あてはまるもの1つに○)	1	合格した場合、入学したい	15	4.5%	2	2.2%	10	6.7%	3	3.3%
	2	合格した場合、状況によっては入学したい	18	5.4%	7	7.7%	5	3.3%	6	6.7%
	3	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		計	33	100.0%	9	100.0%	15	100.0%	9	100.0%

※無回答には出願資格がない者の回答数も含む。

本調査のA～Cの各調査対象において出願資格があり、かつ入学意欲のあるものの数を算出した結果から、入学意欲を持つと考えられる「入学したい」、「状況によって入学したい」との回答はすべての調査対象の合計で26人となった。また入学に対してより意欲的であると思われる「入学したい」との回答だけでも合計で13人と当該研究科の入学定員の2倍以上となっている。

以上、本調査の結果から当該研究科について、学生の確保は可能であると考えられる。

＜入学意向アンケート調査結果より抜粋＞

ウ) 学生納付金の設定の考え方

本研究科は、主な入学者を社会人及び現役学生と想定していることから、入学者の学費負担能力を考慮し、同時に大学院の研究科としての充実した研究と教育を可能とし、継続的かつ安定的な運営が可能となる学生納付金金額を、以下の通り設定した。

【兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻（修士課程） 学納金】

- ・ 入学金 : 200,000 円
- ・ 授業料等 : 600,000 円
- ・ 初年度納入金合計 : 800,000 円

本研究科が競合すると考えられる、兵庫県及び大阪府、岡山県の経済系大学院の学納金（平成30（2018）年度）は（資料6）の通りである。本学の学納金は、比較的低い水準であり、学生の負担軽減に配慮した学納金設定としている。

【資料6 兵庫県及び大阪府、岡山県の経済・経営系大学院の学納金】

（2） 学生確保に向けた具体的な取組状況

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻（修士課程）の基礎となる学部である現代ビジネス学科では、東播磨地域の二市二町（加古川市、高砂市、播磨町、稲美町）の自治体と商工会議所・商工会をはじめ、いくつかの民間企業とも連携協定を結び、良好な関係を築いている。これらの機関・事業所に勤務する社会人に対し、積極的に本研究科についての周知・広報を行い、志願者、入学希望者に対しては、個別の説明会等を実施することで、学生確保に取り組む。

また、ホームページへの掲載や大学院の受験情報が掲載されている雑誌を通じての周知・広報も実施する予定である。さらに、新聞等も適宜、利用して周知に努める。

本学の現代ビジネス学科の在学生に対しては、各年度のキャリアガイダンス時に、指導教員から本研究科の教育内容も含めて周知を行う予定である。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻（修士課程）では、基礎となる現代ビジネス学部の教育研究をさらに発展させ、地域経済に関する高度な理論および応用と、情報技術やビジネス手法を活用した課題解決のための創造的思考法の教授研究を通じて、地域社会やグローバル社会で実践的に課題解決に携わり、地域経済の活性化と発展に寄与できる高度な専門職業人を養成する。

[養成する人材像]

- ア 地域の産業振興や地域資源の事業化ができる人材
- イ 地域ビジネスをグローバルに展開できる人材
- ウ 情報技術を活用しビジネスの手法で地域の課題を解決できる人材

本研究科では、地域経済の活性化と発展を実現するために、産業振興や地域振興のための事業構想と高度な実践力が求められる職業を担うための高度な専門性と実務能力を身に付けた人材を養成する。

修了後は、企業をはじめ、行政、商工会議所・商工会、青年会議所等を活躍の場とし、また、起業家やコンサルタントという立場で、地域創生のリーダーとして地域経済の発展に寄与できる人材を目指す。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

平成 17 (2005) 年以降、少子高齢化が急速に進む人口減少社会を迎えている。人口急減、超高齢化社会に対して政府は、各地域がそれぞれの特徴を活かして、自律的で継続可能な社会の創生を図るため、平成 26 (2014) 年 9 月に「まち・ひと・しごと創生本部」を設置した。平成 30 (2018) 年 12 月閣議決定の「まち・ひと・しごと創生総合戦略 2018 改訂版」において、「人口減少と地域経済縮小の克服」「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」との方針が盛り込まれている。これらの施策を支援する側面として、情報、人材、財政の 3 つを挙げており、人材支援では、実際に地方創生を担う専門人材の確保、育成、活躍によって地方創生の深化が実現するとしている。具体的には広く専門人材の養成・研修を図るための地方創生カレッジ、地方創生に取り組む地方公共団体に対する国の相談窓口としての地方創生コンシェルジュ、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を市町村に派遣する地方創生人材支援制度などが必要とされる。

本学の所在地である加古川市においても、地方創生にかかる全庁的な取組みを実施するために、平成 27 (2015) 年 2 月に「加古川市まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、同年 5 月には「加古川市まち・ひと・しごと創生戦略会議」が設置された。人口減少の克服を最重要課題とした総合的かつ分野横断的な計画で、若い世代の結婚・出産・子育て、暮らしの安全・安心、地域への新しい人の流れ、地域の安定した雇用の 4 つの目標を掲げている。新しい人の流れを生み出す施策としては、ニューツーリズムの開発等による観光まちづくりの推進を、また、雇用の安定等では、若者の就労支援、企業育成・誘致、地場産業の育成、起業・創業の促進を挙げ、経済による地域活性化を目指している。

以上のことから、地域経済活動を活性化する人材の需要は増大すると考えられ、経済・経営系大学院の充実は不可欠であり、本研究科の設置も、そのような社会的要請に対応するものである。

【資料 7 まち・ひと・しごと創生総合戦略 (2018 改訂版)】

【資料 8 加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (平成 29 年 4 月改定)】

<本課程の修了予定者の採用意向についてのアンケート調査結果 (採用意向調査)>

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻 (修士課程) の人材需要の見通しを測定するため、平成 30 (2018) 年 11 月～平成 31 (2019) 年 1 月に兵庫県、大阪府、岡山県を中心とする近隣の企業、行政機関等の 304 件を対象として、採用担当者もしくは管理者に対し、本研究科の修了予定者の採用意向調査を実施した (調査報告書は (資料 9) として添付)。調査結果は以下の通りとなった (主要な設問のみ抜粋)。

<採用意向調査結果概要 (抜粋)>

本研究科が養成する人材の社会における必要性を質問したところ、「とても必要だと思う」との回答が 11 件 (回答者全体の 11.3%)、「必要だと思う」との回答が 70 件 (同 72.2%) 得られ、回答者全体の 83.5%が本課程を修了した人材が社会的に必要であると回答した。

本課程の修了予定者の採用意向を質問したところ、修了生を「採用したい」との回答が 18 件 (回答者全体の 18.6%)、「採用を検討したい」との回答が 50 件 (同 51.5%) 得られた。採用意向が高いと思われる「採用したい」の回答は、入学定員 5 名に対し 18 件 (3.6 倍) と大幅に上回っており、十分な採用需要があることが本調査にて示された。

問 6	番号	選択肢	回答数	構成比
貴社・貴機関・貴団体において今後、兵庫大学大学院「現代ビジネス研究科修士課程」で学び、養成される人材（修了生）を採用したいと思われませんか。	(1)	採用したい	18	18.6%
	(2)	採用を検討したい	50	51.5%
	(3)	採用したいと思わない	23	23.7%
		無回答	6	6.2%
		計	97	100.0%

【資料 9 採用意向についてのアンケート調査（人材需要ニーズ調査）報告書】

上記の調査結果により、企業、行政機関等において、本研究科の修了予定者が社会に必要と捉えられていることが読み取れ、また、本研究科の修了予定者の採用意向も確実に存在することが示されている。

以上の考察と調査結果により、本研究科の学生の確保及び修了予定者の社会的な人材需要及び採用需要は、十分に見込みがあると言える。

以上